

令和8年9月1日

京都市長

松井 孝治 殿

安寧自治連合会

会長 松村 宗一

元安寧小学校跡地活用に関する要望について

平素から安寧自治連合会の活動に多大なるご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

件名のことにつきまして、下記のとおり、安寧自治連合会としての要望書を提出しますので、候補事業者の選定等を実施する際には、地元住民の意見として、最大限汲み取っていただきますようよろしくお願いいたします。

記

1 安寧学区及び元安寧小学校について

安寧学区は元安寧小学校を中心として、東は西洞院通から西は櫛笥通まで、北は七条通あたりから南はＪＲ東海道本線までの地域であり、京都駅の西側に位置している。

安寧学区にある元安寧小学校は、明治２（１８６９）年１１月２１日、下京区下魚棚通油小路西入土橋町に、地元の有志の尽力により、下京第２１番組小学校として設立され、昭和３４（１９５９）年に堀川通の拡充のため、現在の場所に移転した。

その後、安寧小学校は、少子化の影響を受け、昭和３０（１９５５）年に最大７８５名いた児童が減少の一途を辿り、平成５（１９９３）年には７７名となったことから、児童により良い教育環境を提供するため、平成８（１９９６）年に大内小学校と合併し、京都市立梅小路小学校が設立された。

安寧小学校は、廃校となったものの、現在は、安寧自治連合会が地元自治活動の拠点及び住民の文化・スポーツ活動の場として活用しており、地元住民にとって地域の交流を図る上で、唯一無二の場所となっている。

なお、安寧小学校が廃校される際に、安寧自治連合会から京都市教育委員会に対して、要望書（平成７年５月１２日付「大内小学校と安寧小学校の統合について」）を提出しているが、要望事項の一つとして、「閉校となる安寧小学校の跡地活用については、地元の要望を十分に尊重して対応していただくこと。」との意見を出しており、京都市においても当該意見について、十分に認識していただいていると考えている。

また、元安寧小学校は、災害時における京都市の指定避難所であり、水害時には緊急避難場所にもなるため、地元住民はもとより、１日平均の乗降人員が６０万人と言われる京都市の玄関口である京都駅に隣接する地域としても、防災の観点からとりわけ重要な施設である。

2 元安寧小学校跡地に求める役割について

上記1のとおり、元安寧小学校は、①自治活動（元教室等を利用した安寧自治連合会および各団体の活動）、②文化・スポーツ（高齢者から子供までを対象としたさまざまな分野の文化活動や、体育館でバレーボール、ソフトバレーボール、ボッチャを、グラウンドでグラウンドゴルフ、ソフトボール、少年野球を、そして区民体育祭等の実施）、③防災（総合防災訓練の実施、京都市指定避難所、地下貯水槽の設置、災害備蓄品の保管等）を支える重要な拠点であり、地域コミュニティ活動を維持するために、必要不可欠な施設である。

そのため、地元住民としては、元安寧小学校を現状のまま維持し、従来どおり、地域コミュニティ活動の拠点として永続的に利用していきたいと考えている。

一方、元安寧小学校は設備の老朽化が進んでおり、様々な拠点としての機能に地元住民の不満や不安があることから、建物の建替え、耐震補強又は継続的な維持管理を京都市にお願いしたいところではあるが、社会保障費の増加や平成初期の多額の設備投資により、厳しい財政事情を抱える京都市に対し、改修工事等の費用負担を要望しても、現実的に困難であることは一定程度理解をしている。

仮に、元安寧小学校跡地の活用を事業者に委ねる場合は、学校跡地について、①自治活動、②文化・スポーツ、③防災を支える拠点機能を維持することを京都市及び事業者に強く要望する。

なお、安寧自治連合会にて、令和6年3月に地元住民に対し、「元安寧小学校跡地活用に関するアンケート」を実施したところ、自治活動等を行うため、グラウンド、体育館、会議室等の施設は残して欲しいという意見が数多く寄せられた。

また、令和7年7月9日、「元安寧小学校跡地問題検討委員会」のワークショップを開催し、元安寧小学校の跡地活用を通して、今後、安寧学区をどのようなまちにしていきたいか、また、どんなまちになって欲しいかの意見交換を行った。そこでは、「地域ぐるみで子どもを育てられるよう、子どもたちからお年寄りまでの地域の憩いの場になれば良い」、「ここに来たら誰かに会え、役割があり、活躍できるもう一つの家のような場所を作りたい」、「子育て世代、高齢者といった多世代が交流し、地域住民同士の親しみが增えるまちにしたい」といった意見が出された（下記「参考」を参照）。

京都市及び事業者には、元安寧小学校に対する地元住民の深い愛着心や、地元住民がまちに込めた大切な想い、地域コミュニティ活動の拠点としての重要性を理解していただき、これからも学区民どうしの繋がりがさらに深まり、長く続くような元安寧小学校跡地の活用策を検討してもらいたい。

（参考）ワークショップ（元安寧小学校の跡地活用を通した「まちづくり」について）

令和7年7月9日に、元安寧小学校の跡地活用を通して、今後、安寧学区をどのようなまちにしていきたいか、また、どんなまちになって欲しいかの意見交換を実施し、以下のような意見があった。

① 安寧学区の好きなところ、自慢できるところ

- ・ 安寧学区は京都駅に近く、学区内には、年間を通して国内外問わず多くの人が訪れる西本願寺、若者が集い、学ぶ、龍谷大学大宮キャンパスを有しているものの、区民体育祭等といった地域活動を通し、お互いの顔が見え、自然にいつでも話し合える関係があるまちである。

② 元安寧小学校跡地でこれからやってみたいこと

- ・ 地域ぐるみで子どもを育てられるよう、子どもたちからお年寄りまでの幅広い世代にとっての「地域の憩いの場」になればよい。
- ・ ここに来たら誰かに会え、役割があり、活躍できるもう一つの家のような場所を作りたい。

③ 元安寧小学校の跡地活用を通じた安寧学区の「まちづくり」について

- ・ 子育て世代、高齢者といった多世代が交流し、地域住民同士の親しみが增えるまち
- ・ 自然に人が集まり、地域のことについて話し合える関係のあるまち
- ・ 地域住民と来訪者が混ざり、人や文化などの様々な出会いが生まれるまち
- ・ 災害や犯罪から守られ、高齢者も安心して住み続けられるまち

3 その他の要望について

京都市及び事業者が元安寧小学校跡地の活用を検討するに当たって、①自治活動、②文化・スポーツ、③防災を支える拠点機能の維持については重要不可欠であるが、併せて、以下の点についても地域の事情を踏まえ、特段の配慮をお願いしたい。

(1) 日用品や食料品を購入できる施設の設置

建物の耐震問題で、令和5年7月に「エビスク七条店」が撤退した後、安寧学区近隣で日用品等を手軽に購入できるスーパーマーケットが無い状態である。

その結果、高齢者等から「買い物に困っている。」との声が多数寄せられているため、移動販売車等による日用品等の販売を試験的に導入する等の対応を行っている。

長距離移動が困難な高齢者等にとって、重い荷物を持ちながら、交通量の多い安寧学区内を移動することは、転倒等による怪我のリスクが伴うことから、元安寧小学校跡地の一部にスーパーマーケット等を設置するなどの配慮をお願いしたい。

(2) 宿泊施設及び娯楽施設等の設置に対する見解

上記のとおり、元安寧小学校は、①自治活動、②文化・スポーツ、③防災を支える重要な拠点であり、地域コミュニティ活動を維持するために、必要不可欠なものであるため、これらの活動支援に消極的な姿勢の宿泊施設（ホテルやゲストハウス等）の建設には反対である。

また、著しい騒音が生じる娯楽施設や、地域の環境や風紀を乱す嫌悪施設については、学校施設であった元安寧小学校跡地の活用方法として相応しくないと考える。

(3) 資料等の保管及び備蓄庫等の設置

元安寧小学校の南校舎には、安寧学区に係る貴重な歴史的資料が保管されているため、当該資料の保管場所の確保や、災害時の避難所としての機能を考慮し、食料等の備蓄庫及び消防器具庫の設置をお願いしたい。

(4) 地域行事の協力

元安寧小学校のグラウンド等については、毎年4月に行われる稲荷祭や、安寧消防団の訓練等に使用されているため、従来通り、活動ができるよう敷地の提供に協力をお願いしたい。